

## 「第71回 日本放送協会 放送文化賞」の贈呈について

「第71回（2019年度）日本放送協会 放送文化賞」は、次の方々に贈呈することに決定しました。<五十音順>

い つ き  
五木 ひろし 氏 / 歌手

は ん し ん きょじん  
オール阪神・巨人 氏 / 漫才師

お が さ わ ら さ え も ん の じ ょ う り ょ う けん  
小笠原 左衛門尉亮軒 氏 / 園芸研究家、園芸文化協会 会長

た ち ば な よ し え  
橘 芳 慧 氏 / 日本舞踊家

な か む ら き ち え も ん  
中村 吉右衛門 氏 / 歌舞伎俳優

ふ じ い と し つ ぐ  
藤井 敏 嗣 氏 / 東京大学 名誉教授

む ら お か ひ ろ あ き  
村岡 裕 明 氏 / 東北大学 名誉教授

この賞は、1949（昭和24）年度に放送開始25周年事業として創設したもので、放送事業の発展、放送文化の向上に功績のあった方々に贈呈しており、これまでの受賞者は今回の7組をあわせて464組となります。

受賞者の選考は、NHK副会長が委員長を務め、池端俊策氏（脚本家）、今井秀樹氏（東京大学名誉教授）、大石芳野氏（フォトジャーナリスト）、鳥飼玖美子氏（立教大学名誉教授）、二木謙一氏（國學院大學名誉教授）と、NHKの理事5人の計11人を委員とする選考委員会で行われ、これを受けて会長が決定しました。

受賞者には佐藤忠良氏作のブロンズ像「ふたば」と副賞を贈呈します。

## 第71回日本放送協会放送文化賞・受賞者資料

いっき  
五木 ひろし 氏 (71) 《歌手》



1970年代以降、数々のヒット曲を発表し、日本歌謡界のトップランナーとして活躍しています。「NHK 歌謡コンサート」「うたコン」などの歌謡番組に多数出演している他、「いっきにパラダイス」「歌う！SHOW 学校」では、番組ホストとしても活躍。「NHK 紅白歌合戦」では1971年の初出場から2019年の第70回まで49回連続出場。その歌唱は視聴者に大きな感動を与え、放送文化の発展に貢献しています。

はんしん きょじん  
オール阪神・巨人 氏 (62・68) 《漫才師》



1980年代の漫才ブーム以来、テレビ・ラジオおよび劇場の第一線で漫才を披露し、大衆文化としての上方漫才を牽引し続けています。1985年に放送を開始した「バラエティー生活笑百科」では、放送開始から現在まで出演し続けている唯一のレギュラーである他、「上方演芸会」など多くの演芸番組に出演し、放送を通じて上方漫才の継承と普及に大きな役割を果たし、放送文化の発展に貢献しています。

おがさわら さえもんのじょう りょうけん  
小笠原 左衛門尉亮軒 氏 (86) 《園芸研究家、園芸文化協会 会長》



放送開始から53年の長寿番組「趣味の園芸」に、半世紀近くの長きにわたり出演し、卓越した園芸技術と分かりやすい解説で名物講師として番組を牽引しています。また長年、「江戸園芸」を研究し、「新日曜美術館」などの文化・教養番組に出演して、世界でも類を見ないとも言われる日本の園芸文化について、その背景にある日本人の美意識、自然観などを広く伝え、放送文化の発展に貢献しています。

たちばな よしえ  
橘 芳慧

氏（78） 《日本舞踊家》



1999年の連続テレビ小説「すずらん」以降、数々の大河ドラマや時代劇において所作指導、振付を担当。「につぼんの芸能」などの古典芸能番組に出演し日本舞踊の魅力を伝えるとともに、ドラマ番組の所作指導においては、「座る」「立つ」といった日常的な立ち居振る舞いまで指導して、伝統芸能に裏打ちされた豊富な知識・技術と、柔軟な発想や思考により、NHKのドラマ制作にとって欠かせない存在となっています。

なかむら きちえもん  
中村 吉右衛門

氏（75） 《歌舞伎俳優》



古典歌舞伎における風格ある演技、役の心を捉えた見事なせりふ回しは観るものに深い感銘を与え、当代随一とも言われる名立方として活躍。「古典芸能鑑賞会」や「古典芸能への招待」など数多くの番組を通して歌舞伎の魅力を広く伝えています。また、新大型時代劇「武蔵坊弁慶」で主役の弁慶を演じた他、「漢詩紀行」で重厚な朗読を聴かせるなど、多彩な才能で番組を支え、放送文化の発展に貢献しています。

ふじい としつぐ  
藤井 敏嗣

氏（73） 《東京大学 名誉教授》



火山研究の第一人者として、全島民が避難した1986年の伊豆大島噴火以降、30年以上にわたって災害報道に貢献しています。雲仙普賢岳、桜島、御嶽山、阿蘇山など数々の火山噴火時の緊急報道において、火山の活動状況や防災上の注意点を伝え続けている他、「NHKスペシャル」などの特集番組や「クローズアップ現代」などの番組にも数多く出演。NHKの火山報道の根幹ともなる役割を担い、公共放送の意義を高めています。

むらおか ひろあき  
村岡 裕明

氏（67） 《東北大学 名誉教授》



放送局や家庭で映像を記録するのに不可欠なハードディスクの研究に長年取り組み、大容量で高速度な記録方式の実用化に貢献。放送局のテープレス化や家庭での番組録画再生の普及を促進するなど、放送の制作と視聴スタイルを大きく変え、放送文化の発展に貢献しました。また、NHK放送技術審議会委員・同委員長、NHK放送技術研究委員会委員などを長年務め、放送技術の発展に寄与しています。